感謝の気持ち、歌に乗せ

ハーモニーホー

30周年記念コンサートを開く「エバーボーイ」の鷹觜さん（右）と大室さん

ルで開かれる。メンバーのレストラン店主鷹觜浩英さん（63）＝美原2丁目＝と元会社員大室一博さん（64）＝中央2丁目＝は「音楽仲間や地域の皆さまに支えられて節目を迎えられた。感謝の気持ちを音楽に乗せて届けたい」と話している。（草場和樹）

エバーボーイは94年に結成。鷹觜さんが市内にレストランを開いたことを機に大室さんと再会し、中学時代に興じたギターの話で盛り上がり意気投合した。

県北地域を中心に活動し、「市さくら祭」と「市産業文化祭」では毎回ステージに立つなど活躍の幅を広げてきた。結成20年目の2014年には初の単独コンサートを開催。

15年9月に鷹觜さんが大腸がんを患い、思うように活動ができなかった時期もあったが、病を乗り越え現

持続可能な日光へ

中学生MIRAIサミット

参加生徒が提言書提出

提言書を粉川市長（中央）に提出する中学生サミット参加者

【日光】市内中学校の生徒会長らが、ふるさとの課題などについて意見を交わした「中学生MIRAIサミット2024」の出席者が9月26日、市役所を訪れ、粉川昭一市長に提言書を手渡した。

サミットは8月に開かれ、13校から3年生13人が参加。「持続可能な日光市となるために」など、サミットで話し合った四つのテーマを提言書にまとめた。

それぞれのテーマについて現状や課題を指摘した上で、5～8の提言を記している。このうち「閉校した学校の利活用」について図書館や宿泊施設、道の駅などとして利用することを提案。持続可能な日光市となるために、隠れた魅力の外部発信を求めている。

この日は、サミットで進行役を務めた宝珠院副住職の倉松宗道実行委員長（38）と、各校の代表8人が訪問。

サミットにも参加していた粉川市長は「これからも市の未来がより良くなるよう考え続けてほしい。それを受け止められるようにしていく」と話した。

提言書を粉川市長に手渡した藤原中生徒会長の小野はるかさん（14）は「みんなで考えた意見。これからの市に生かしてもらえれば、この会議が有意義なものになると思う」と話した。（穴原功郎）

中禅寺湖の釣り文化守れ

日光 NPOが湖底清掃

【日光】奥日光・中禅寺湖の釣り文化、自然環境の保全を目指すNPO法人「Lakeside Stories（レイクサイドストーリーズ）」は9月26、27の両日、湖岸近くで湖底のごみなどを回収する清掃作業を実施した。

両日の清掃では小型船からダイバー2人が潜水。ほかの釣り・レジャー客や遊覧船の航路などに注意し安全を確保しながら、湖底にあるプラスチックなどのごみ、水中の障害物に引っかかる「根掛かり」などで水中に残ったルアーを回収し、分別作業を行った。

同法人は回収したルアーなどの金属について、国内有数のものづくりの街、新潟県の燕三条地域で溶かした上で別の製品に作り替える「アップサイクル」の実施を検討している。

同法人の理事で本県を拠点に釣りの魅力を発信する活動をしているショータ・ジェンキンスさん（40）は「再び水中に残される可能性があるルアーではなく、クマを避けるための熊鈴などに再生し、中禅寺湖について知ってもらうきっかけにしていきたい」と話した。（延藤哲史）

湖底のごみを回収するメンバーら

烏山駅周辺に新庁舎を

整備検討委、市長に答申

那須烏山

川俣市長（左）に答申書を手渡す三橋委員長

【那須烏山】識者や市民らでつくる「市庁舎整備検討委員会」は1日、市役所烏山庁舎で、新庁舎をJR烏山駅周辺に建設することが望ましいなどとする答申を川俣純子市長に提出した。市はパブリックコメント（意見公募）や市議会への報告などを経て基本構想を年度内に策定する方針。

答申書を手渡した検討委員長の三橋伸夫宇都宮大名誉教授は「議論を尽くし、若い人や女性など多様な意見を反映した。まだプロセスはあり、引き続き市民への情報提供を進めてほしい」と述べた。川俣市長は「烏山線の存続や烏山高生の利便性向上にもつながる化などを踏まえて見直すため、23年6月に組織された。13回の会議で、烏山、南那須の両庁舎の著しい老朽化や烏山駅周辺の活性化への期待などから、新庁舎建設の候補地に烏山駅周辺を選定した。

諮問項目に含まれた「本庁舎周辺の公共施設の在り方」については、庁舎以外の公共施設の整備場所などを検討委で固める本構想素案を社会情勢の変本構想素案を社会情勢の変化などを踏まえて見直すため、23年6月に組織された。13回の会議で、烏山、南那須の両庁舎の著しい老朽化や烏山駅周辺の活性化への期待などから、新庁舎建設の候補地に烏山駅周辺を選定した。

諮問項目に含まれた「本庁舎周辺の公共施設の在り方」については、庁舎以外の公共施設の整備場所などを検討委で固めるけ止めた。

検討委は、2019年3月に策定した旧庁舎整備基

補正予算など48議案を可決

那須塩原市議会散会

【那須塩原】通年議会の市議会定例会議は1日、本会議を開き、25億1200万円を追加し総額578億8200万円とする本年度一般会計補正予算や、使用料の原則有料化に伴う市公民館条例の全部改正、追加提出された大山小体育館改築工事の契約締結など48議案を可決した。2023年度一般会計歳入歳出決算などの認定9件も可決し、専決処分2件が報告された。

再審法改正を求める意見書を政府等に提出することを求める陳情を採択し、採択に伴う議員発議を可決した。公民館の有料化見直しなどを求める陳情7件は不採択とした。また山形紀弘議長が議会運営委員会の中里康寛委員長の辞任などを報告し、散会した。

リップ注意」「雨の日の

ことは「時期尚早」と判断。市に求められる公共施設を市内各地に配置した市の理想的な将来像を付帯意見とした。（富井太啓）

自分の命守る行動を

大震災の脅威経験者に学ぶ

那須中で防災授業

鈴木さんの話を聞き、防災について話し合う生徒ら

【那須】那須中の全校生徒約160人を対象にした防災授業がこのほど、同校体育館で行われ、生徒らは東日本大震災の津波経験者の話を基に防災意識を高めた。

町内の小中学校が防災などについて学ぶ独自教科「NAiSUタイム」の一環。同校生徒会執行部は8月、宮城県女川町出身で小学6年の時に被災し、津波の脅威を後世に伝える「女川いのちの石碑」の建立などに携わった鈴木智博さんにオンラインで話を聞いた。

授業では、生徒会執行部による鈴木さんへのインタビューを収めた録画映像を上映。鈴木さんは町の概要や被災時の状況などを紹介し、正しい記録を残して未来に伝えようと21基の石碑建立に取り組んだ経緯などを説明した。その上で「防災に関心を持ち、自分の命を守るためにどうすればいいかを考えてほしい」と呼びかけた。

生徒らは真剣な表情で映像に見入り、鈴木さんらが石碑に込めた思いなどを考えた。生徒会の3年大森蒼介さん（15）と長谷川絢人さん（15）は「当事者にしか語れない話を聞けた。絆を強める大切さを感じたので、自分たちも意識していきたい」と話した。（柴田大輔）

福田屋百貨店 秋の絵画展
2024.10/9㊌～10/14㊊㊗
午前10時～午後7時 ※最終日は午後5時にて閉場させていただきます

倉庫内の農機
まとめて買い取
丁寧な査定!